



特定非営利活動法人

## 神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 339

März 2019

### NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE  
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

## 2019年度ドイツ語講座開講

会長 柘田 義一

4月8日(月)より2019年度ドイツ語講座第I期を開講します。

ドイツへ旅行に行きたい、ドイツ人とドイツ語で会話を楽しみたい！

ドイツ語を学んでみたい、ドイツ語をまたじっくりと学び直したい！

ドイツ語で小説を読んで楽しみたい、ドイツの新聞を読んで世界の動きを知りたい！

こんな希望に神戸日独協会のドイツ語講座は応えます。

### 神戸日独協会「ドイツ語講座」の特徴は

✎ 三宮で60有余年の長い伝統、「楽しく・ゆっくりと・着実に」をモットーに

神戸日独協会「ドイツ語講座」は、1957(昭和32)年4月に開講され、今年で62年を迎えました。「楽しく・ゆっくりと・着実に」をモットーに連綿と開講されている神戸のみならず西日本で最も伝統のある「ドイツ語講座」です。

✎ ドイツ語だけでなく、ドイツの日常や文化についても

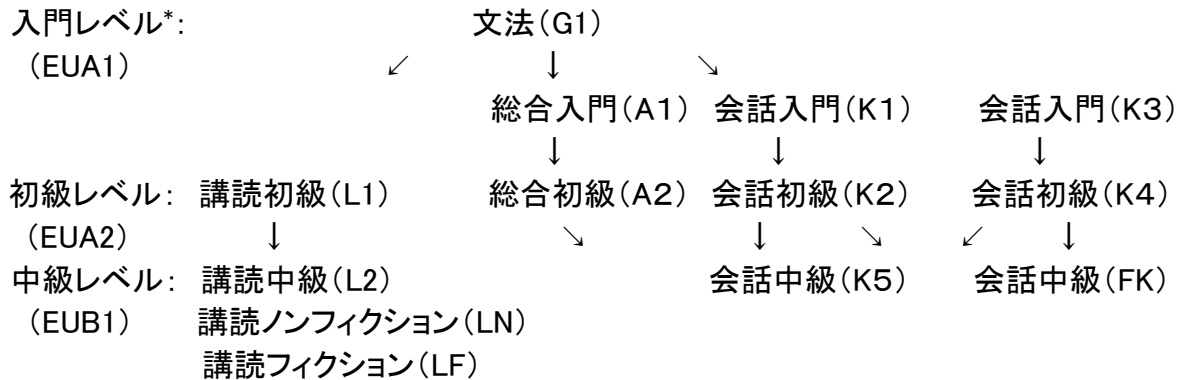
神戸日独協会「ドイツ語講座」の特徴は長い伝統に加えて、一般の語学学校やカルチャーセンターのドイツ語講座とは異なり、長くドイツとの親善交流に貢献してきた「神戸日独協会」が運営していることです。協会ではドイツや日独交流に関する講演会、文化教室、コンサートなど多彩なイベントを提供し、講座受講の皆様のドイツとドイツ語に対する関心と理解をより深めていただいています。イベントを通してドイツ語学習の興味が生じた時には、ドイツ語を学び・用いる場が身近に提供されています。

✎ 経験豊富な講師陣

日本人講師、ネイティブ講師とも、長年大学にて初級から上級までの多様なドイツ語授業を担当し、ヨーロッパの言語教育の基礎となっている「外国語学習のためのヨーロッパ共通参照枠CEFR」に精通している経験豊富な講師が授業を担当しています。ドイツ語学習経験の有無・期間、学習の目的、これらの多様さにも対応しながら授業を行います。

## ✎ 多彩なクラス

ドイツ語の基礎を初歩から学ぶクラス(G)、文法・会話の基礎を総合的に学ぶ基礎クラス(A)、ネイティブによる会話中心クラス(K)、小説や時事記事を読む読解クラス(L)、これらの多彩なクラスに加えて、2018年度からは、コミュニカティブな授業の充実を図り、さらに段階的な履修をしていただけるクラス編成をしています。



(レベル\*は、欧州評議会が定めるドイツ語レベルに相当します)

上図での矢印はお勧めの受講段階を示したもので、途中段階からの受講も可能であり、歓迎いたします。授業内容の詳細については、同封のパンフレットをご覧ください。ご不明の点は協会へお問い合わせください。

神戸日独協会では戦後の再設立以来「ドイツ語講座」を開講し、受講料が会費と並んで協会の運営を支える大きな資金源となっています。最近ドイツ語講座には受講者漸減の傾向が、特に会員に見られます。多くの会員の方に受講していただけるように、協会では会員のドイツ語学習の動機・興味・必要性に応じた講座を提供するように努めるとともに、「会員は一講座につき1500円の割引」(一年間4期参加で6000円)を行っています。

多くの会員の皆様にご参加をいただいて、この伝統ある「ドイツ語講座」が隆盛に続くことを願ってやみません。今年こそドイツ語を通じてドイツへの新しい扉を開いてみませんか。

多くの会員の方々の受講をお待ちしています。

## 特集 ドイツ語講座紹介

新年度4月からのドイツ語講座に多くの方に受講をお勧めするため、現在開講している講座の授業内容、授業の雰囲気、お勧めしたい点などを、現在受講している方に紹介していただきました。

### 会話クラスA1

吉田 早苗

今年一月の見学から初めて2ヶ月弱、30年以上前の学生時代のことを思い出し講義を受けています。板山真由美先生のA1、A2と両方を拝見して空白があることから改めて基礎のA1から学んでみて、懐かしい気分になりつつ現代のドイツ語の授業を受けていると過去と現在を心が行き来するような不思議な感覚を覚えます。学生時代は文法中心だったので、まずは会話と発音から入っていく現在の講義で久しぶりに生で聴くドイツ語の音声を確認しつつ、今の語学の現場

を見せてもらっています。

少人数で講義や質問は日本語で全て行われるので解りやすくいつでも単語や解らないところを確認できるので、すっかり初心者に戻った自分でも安心して受けられるのが何よりありがたかったと思います。幼少の頃からのお出かけの場所、中学高校と電車通学で通い慣れた神戸三宮駅に降りると心和むものが。外国人が駅や街中を行き交う港町の開放的で洒脱さと共に素朴さと下町情緒が程良く残った風通しの良さと馴染みのある街で、ドイツ語との再会でした。会話の定型と発音から、いつか場の空気感の味わいや間の取り方が楽しめたらと。そこまでこなれるほどの経験が積めるかどうか、先のことよりまずは授業を楽しもうと思います。

最初は新たにフランス語を学んでみようかと考えていましたが、子供の頃にピアノで習ったバッハのメヌエットや、学生時代ドイツ語の教授から頂いた古い葉書、ふとした時にドイツ語がなぜか目に飛び込んできたり。ならば21世紀の今、改めて学びなおす機会かもしれないという感覚。

原書を読めたらと思いつつ始めましたが、かつて梅田のミニシアターで観た「テルレスの青春 Der junge Törless」や学生時代に先生から「制服の乙女」を観た頃のお話を伺った事を思い出しつつ、外国語コミュニケーションへの一歩を踏み始めました。

## 会話クラスA2 A2クラス

友田 則子

こんにちは、ドイツ語A2クラスの友田です。今日は私たちのクラスをご紹介します。

A2クラスは月曜日の午後6時10分から7時30分までです。先生は、温厚でいろいろなドイツ語やドイツについての質問に答えていただける板山先生です。クラスは各期によって人数は違いますが約4～6人くらいで、年代、職業等いろいろな生徒です。また、ドイツ語を知っているレベルも学生時代に勉強をした人、私のように初めてドイツ語の勉強を始めた者と、これもいろいろです。

授業は 最初に、各自が各自のレベルで、この一週間の出来事を短く発表し、それを板山先生が正しい言い方に直して下さいます。生徒の興味のある分野はそれぞれ違うので、異なった分野の単語や表現を覚えることができます。教科書は Farbkasten Deutsch 2 で、絵も多く見やすく中身の濃い教科書です。いろいろな場面設定でドイツ的な考え方も含まれており新しい発見もあります。教科書の中で、私たちが苦手なところは、板山先生が別にプリントで練習問題を追加して下さり、練習します。授業の1時間20分はあっという間に和やかに過ぎます。教科書から少し宿題は出ますが、そのほかに余裕がある時に、短い作文・日記を書いていくと次週に添削して返していただけます。これは書くのはちょっと大変ですが、新しく覚えた単語、文型を使ってみるので書いたときは正しくなくても、直していただいでよく覚えていきます。以上が私たちのクラスです。

次に私事ですが、私は2017年の4月からA1のクラスに参加しました。その時は68歳で、ドイツ語は一度も勉強をしたことがありませんでした。なぜ習い始めたかという時間があり、好きで行くツアーの海外旅行で4年続けてドイツ語圏へ行ったからです。軽い気持ちで始めたのですが 年齢のこともありなかなか覚えられず大変です。2018年は他の海外旅行はやめ、ちょっと無謀でしたが、ウィーンの夏期語学集中講座に参加し 学生寮に泊

まり、17歳から23歳の若い人たちに混じり必死で講座を受けてきました。何もかもが面白かったです。その後も興味が増し、今も楽しく勉強しています。皆さんも、もし何か興味のあることが見つかったら、年齢等に関係なくその時が最良の出発時点だと思います。

## 会話クラスK1 ドイツ語入門クラスを半年間受講して

福田 猛範

私がドイツ語に興味を抱いたのは、大好きなテクノ・ミュージックからでした。ドイツ出身のアーティストが特に好きで、本場のクラブに行ってテクノを聴きたいという単純な理由からドイツ語を習いたいと決めました。インターネットで検索をして神戸日独協会でドイツ語講座がある事を知り、昨年の10月からK1クラスを受講しています。

初めてドイツ語を学ぶ不安もありましたが、同じタイミングでレッスンを受講した生徒さんは親しみやすく、講師の Köszegei 先生の授業も面白いです。時々ジョークや手品(先生の特技)を交えながら楽しく教えて下さいます。もちろん楽しいだけでなく受講中はドイツ語しか話してはいけないというルールもあり(習っている範囲で)、何とか伝えなければいけないという思いから、良い緊張感で学習の向上に繋がっていると思います。

授業内容はアルファベット・数字・人称・動詞等の基本単語を学び、簡単な文章で自己紹介・住んでいる場所・持ち物などについて質問したり答える事が出来る様になります。願望・可能・義務等の助動詞を覚えれば、さらに表現の幅が広がります。今は過去(完了)を授業で習っていますが、この辺りの文法は現在・完了とカバーする範囲が広い為、シンプルで日本語に似ている部分があるなあと思いました。

ヒアリングに関してはゆっくり明瞭に話して下さいますので聞きとりやすいです。また都度、習った事をロールプレイングで質問・回答を交互に繰り返す為、内容の理解が深まり会話のバリエーションが増えていきます。

私も最初は徐々に増える単語や文法を覚えるのは大変そうに思いましたが、実際授業を受けているとテーマに沿った流れから繰り返し出でくる単語や文法を自然に覚える事が出来る為、思ったよりも楽しく学ぶ事が出来ています。

約半年間受講してきて、少しずつですがドイツ語の面白さが広がっています。

## 会話クラスK2 ドイツ語講座の紹介

西口 陽向

私は現在大学1年生です。私が高校1年生の際、ドイツに1年間留学をしました。その留学前からお世話になり始めたのがこの神戸日独協会でした。その時から今までクーセギ先生にお世話になっています。

現在私が所属しているクラスはK2です。受講者数は現在3人ですが毎回楽しく授業を受ける事ができています。授業内容としては、ペアの会話が主となります。まず授業始めに先週の出来事についてペアで会話するところから始まります。その後、毎回違う1つのテーマについて会話して

いきます。先生がそのテーマ内で質問を出し、私たち生徒が自由に意見を出し合い、それをみんなで共有するというのが授業の大まかな流れです。会話の他にもリスニングや文法についても勉強します。

特徴としては少人数制の授業だということや、1人で取り組む作業が少ないため、みんなで分からないところも共有できることです。

私がこの神戸日独協会をお勧めしたい理由は大きく2つあります。1つ目は、多くのクラスが外国人の先生だということです。これは現地で勉強しているかのような形に近づくとともに、外国人の方と直接お話ができる機会にもなります。難しい説明なども簡単なドイツ語でして下さり、ドイツ語と触れることのできる幅が広がります。また、リスニング力としても実際のドイツ語に耳がすぐ慣れてきます。2つ目は、上記でも少し述べましたが少人数だということです。ドイツ語を話すチャンスが増え、先生からのアドバイスも直接簡単にもらうことができます。生徒間でも仲良くなることができ、ひとつの日独ファミリーのように感じます。

これらのことから私はこの神戸日独協会と出会うことができ本当に良かったなと感じております。ドイツ語の経験がある方もない方も是非一度見学にいらして下さい。

## 会話クラス K3

鈴木 愛

テキスト「DaF leicht」を使って、会話を学んでいます。このテキストはドイツで出版されているものなので、文法もしっかり学べると同時にドイツの文化や考え方も知ることができ、日本との違いも感じることができます。

また、テキストを使うだけではなく、ゲーム方式で会話を楽しんだり、テーマに沿ったドラマやニュースなどの動画を見ながら言葉を聞き取ったりもします。

クリスマスやバレンタインなど季節のイベント時には、授業前にプチお茶会をすることもあります。その際のドイツの文化やスイーツについての会話も楽しみのひとつです。

私はこのコースに入ってこの春で2年になりますが、生徒は多い時で5名でした。ドイツ語を学ぶきっかけは人それぞれですが、「ドイツ語を学ぶ」という同じ目標を持った方たちと勉強するのはとても楽しいです。人数が少ない時は、先生とマンツーマンとなることもあります。少人数の授業なので、バランスよく話したり、聞いたりすることができると思います。(マンツーマンの時はとても緊張してしまいますが…)

私がこのコースに決めた理由は、1. 旅行ドイツ語から一歩抜け出し、もう少しコミュニケーション力をつけたかったこと。2. 19時40分からの授業なので、仕事をしていても行けること。そして何より3. 「ネイティブの先生の話が毎週生で聞ける」ということです。映画やインターネットなどでドイツ語を聞くことは可能ですが、直接ドイツ語が聞けることは、私にとっては非常に貴重な時間となっています。

講師のゲッシュ先生は、日本語がとても堪能で、私が聞き取れなかった時や分からなかった時、つい日本語で話をしたりして甘えてしまうこともあります。もっと語彙を増やし、耳を育て、スムーズに会話できるようになることを目標に楽しく学んでいます。

## 会話クラスK4

## ドイツ語講座の紹介

杉本 正樹

私は昨年10月から初級会話コースK4に参加しています。担当は杉谷眞佐子先生です。私は初級のドイツ語文法コースを終えたばかりで、このコースに参加したのですが、文法の復習も交えて、先生はとても親切丁寧に教えてくださいます。ドイツ語会話の初級というものの、テキストの内容や会話の内容には興味深いテーマが多く、大変参考になります。テキストにある会話の速度は先生によれば、ややゆっくり気味らしいのですが、私にとっては十分に速くなかなかついていけないのが実情ですが、先生はCDを活用して何度も繰り返し指導してくださいます。ときには、作文の課題が出ることもあり、語彙の少ない私は相当に困りましたが、先生が丁寧に添削してくださいました。

私がこのコースを選択した理由は、ドイツ語を少しでも聞いたり、話したりできるようになりたいということもあるのですが、以前から興味があったドイツ語圏の文化や歴史をよりよく知りたいというものでした。その点、先生はほぼ毎回講座の初めに前週、あるいは、過去のドイツ、あるいはEUでどんな事件が起きたか、ビデオや新聞記事で教授してくださいます。例えば、現在日本と韓国の間で慰安婦の問題が大きな政治問題になっていますが、第二次世界大戦の敗戦国であるドイツで戦後賠償の問題がどのように対応されてきたか、EVZ(Erinnerung Verantwortung Zukunft: 記憶・責任・未来財団)なる組織が生まれて対処してきたことなど教えてくださいました。国家間の過去をあまり詳しく知らないであろう政治家連中が声高に叫ぶことが決して解決につながらないことを学びました。過去に学び、過去を直視することがいかに大切であるか教えられます。

現在、K4コースの受講生は私を含めて2名だけですが、新学期からはもっとたくさんの皆さんが先生の講座を受講されてドイツ語、ドイツとEUの文化、歴史を共に学ぶことができれば素晴らしいと思います。皆さんの参加を楽しみにしています。

## 会話クラスK5      **ドイツ戦後史“記憶する義務”**      会員 吉川 充子

この授業は、“外国語学習のためのヨーロッパ共通参照枠”CEFR(Common European Framework of Reference for Languages)が一般能力に含めている「外国の社会や歴史に関する知識の習得」を目的としています。

ドイツの戦後史の選ばれたテーマについて、ドイツ語や日本語の映像資料を見たり、ドイツの高校生がギムナジウムで使う教科書や関連資料を読んだりしながら学んでいます。前期は、ドゴール大統領とアデナウアー首相の信頼醸成の結果1963年1月22日に独仏間で結ばれた「エリゼ条約」、独仏青少年友好協定の促進、独仏共通教科書の発行とその内容について学びました。

歴史的背景が全く異なる独仏間の共通教科書の発行は、日本と近隣国では考えられないことでも興味を持ちました。共通教科書発行は、独仏青少年交流会で提案され、両国の首相、大統領の賛同を得て実現しました。この教科書では、相手側の立場を知る事がとても重要視されています。物事の視点(Perspektive)を変えて捉え、無知(Unwissen)を無くし、記憶する義務(Erinnerungspflicht)に繋げていきます。この教科書には、第二次世界大戦の敗戦国である日本の記載も沢山あります。たとえば、戦後の日本の戦争責任問題や、日本で初めて行なわれた公式謝罪として「戦後50周年村山内閣総理大臣談話」が取り上げられています。

日本人である私が深く意識していなかった事が、独仏の教科書に記載され独仏の高校生が学んでいるという事実はとても衝撃的でした。

いつも十分なドイツ語の予習もしないまま授業に臨んでいます。杉谷眞佐子先生の授業は私にとってドイツ及び隣国の戦後史を学び、同時に日本の戦後史についても考える機会となり大きな収穫となりました。

## 会話クラスFK

## 三十数年振りのドイツ語

会員 KN

先日、事務室からドイツ語会話クラスの紹介記事をまとめるようにとの要請を受けた。私は、ドイツ語講座を受講し始めてから未だ2年半程度であり、先輩方に比べて日も浅く、クラスの様子を紹介する適任者だとは到底思えないが、筆を執らせて頂いた。

私は、現在、ドイツ語会話クラスFKを受講している。講師は Frau Goesch である。受講するきっかけは、ある書物で定年退職後の老化防止に、記憶力、聴力、話力などの総合力が必要とされる外国語会話を習うことが有効であることを目にしたことである。ドイツ語会話を選択した理由は、三十数年前のバイエルン州での一年半近くに亘る充実した生活を思い出したからである。本協会では様々なドイツ語コースが開講されている。当初、私のレベルから判断するとせいぜい初級者コースがやっとであると思ったが、開講時間の関係上FKクラスを希望見学することにした。見学時の Frau Goesch の第一印象は、授業に対する熱意と気迫に溢れていた。クラスの受講者は、楽しそうに、それでいて真剣に授業に臨んでいた。受講者のレベルは、明らかに私よりかなり上で、授業についていけるだろうか、受講者の足を引っ張らないか、という不安で一杯になったが、 Frau Goesch とクラスの雰囲気魅せられてこのクラスに参加することを決めた。

授業は、基本的には、毎回予め配布される1~3枚程度のプリント教材にしたがって進められている。さらに、教材に関連した最新のドイツ事情などについての紹介もしばしばあり、実に興味深い。 Frau Goesch は流暢な日本語を話されるが、授業はドイツ語のみで進められている。2年半が過ぎた今、依然、私にはハードルの高い状況が続いているが、遅れないように何とか踏ん張っている。会話の基本となる語彙を増やす努力はしている。覚えても直ぐに忘れてしまう。忘れると、また、覚え直す。このような取り組みにより、ドイツ語を少しでも上達するとともに、老化にブレーキが掛かることを願っている。

## 講読クラスL1

## L1クラスに学んで

会員 藤木 尚子

このクラスは初級の講読クラスです。

私事ですがドイツ語を始めるきっかけは、エアフルトに居る知人を訪ねるため、ツアーの一員として参加した事です。旅行に備えて挨拶などいくつかの簡単な単語は覚えて行ったつもりでしたが、いざ使う時になるとショッピングでも空港でも言葉にする事が出来ませんでした。旅先でドイツの文化や歴史にふれる事により、よりドイツという国に興味を持ちドイツ語の初級クラスを受講することにしました。

初めは文法のクラスで発音や単語などの基礎を学びました。その後今の講読クラスに進み簡単な

童話やユーモアのある文章などを題材に、現在はアメリカ人学生のために書かれたドイツ語の物語を教えてください。ユーモアとサスペンス性のある物語で楽しく読み進めております。時には厳しく、時には優しく！友人は「日本語で読めばいいのに…」と言いますが、一つ一つの単語を調べ少しずつでも読みとれると楽しいですし、達成感があります。

授業中はドイツ語を教えてください以外にもドイツの歴史や民族、宗教そしてワインについて等あらゆる分野の話を先生からお聞きでき、レッスンの時間も忘れ聞き入る事もしばしばです。先生の知識の広さに驚くと共にこの講座を選んで良かったと思っております。

若い頃、語学が大の苦手だった私が初めてドイツ語をここまで続けてこられたのも、偏に先生の懐の広さと忍耐のお陰です。

ドイツ語に不馴れな方、少しでもドイツ語に関心のある方にお勧めしたい講座です。

厳しさの中にもアットホームな雰囲気のあるこの講座を楽しんでいただけることと思います。

皆様 是非ご参加下さい。

## 講読クラスL2

## L2クラスに学んで

会員 津村 直子

3年前からL2のクラスを受講しています。今読んでいるのは1913年に書かれたHerman Hesseの「Der Dichter」で、中国の詩人のお話です。比較的読みやすい文章ですが、所々文法的に複雑なところや作者独特の言い回しがあり、予習の際につまづきます。しかし諦めずに繰り返し読んでみると、ぱっと閃くものがあり、文意がわかって来ることもしばしばです。テキストは難し過ぎても易し過ぎても学習意欲を削ぎますが、この頑張れば手が届く「Der Dichter」は、適度の緊張感を保ちつつ、楽しみながら学べる丁度良い作品だと思います。授業では一語一語の意味や働きを踏まえて、正確に且つ自然な日本語に訳すことが求められ、丁寧な予習が欠かせません。私は授業前日の火曜日を予習に当てていますが、予習と授業の二日間は自分の脳がフル回転し、脳細胞のひとつひとつが生き生きと活動するのが、程よい疲れと充実感から感じ取れます。これぞまさに私にとっては最良のアンチエイジングです。最後に上記の「Der Dichter」を含めこれまで読んだいくつかの作品は、日本では余り知られておらず、また翻訳出版もされていないのではないかと思います。そのような作品に出合えるのもL2クラスで学ぶ楽しみのひとつではないでしょうか。

## 講読クラスLN

## ドイチェ・ヴェレ講読講座

会員 萩原 哲

この講座は、毎週火曜日午後6時10分から7時30分まで開催されています。ドイチェ・ヴェレの講読講座です。ドイチェ・ヴェレは、ドイツの政治、経済、文化、スポーツ等におけるホットな話題や、ドイツから見た海外の状況（日本についても）が紹介されています。その中から、日本にいる私達にとって関心や興味がある話題で、日本ではあまり詳しく取り上げられていないようなドイツ国内政治、EUについての記事、ドイツから見たアジア情勢や日本の政治・経済の記事を講読しています。例えば、私が経験したこの二年間では、ドイツ国内の政治・経済問題（連邦議会選挙、連立組閣、CDU、CSU、SPDの衰退とAfDの台頭、難民問題、旧東独の政治状況、EU内の地域問題、イギリスのEUからの離脱とその影響）、環境問題（地球温暖化対策、エネルギー問題等）、国際問題



では、COP23、アメリカの中間選挙、アメリカのパリ協定やイランとの核合意からの撤退等。また、ドイツから見た日本やアジアの情勢(自由貿易協定、北朝鮮の核開発・ミサイル開発、米朝会談、天皇の退位、テロ対策法の強行採決)などを講読してきました。

この講座の趣旨は、ドイツ語の報道記事の文章を読解することですが、それだけではなく、視野を広げることも狙いとしてあると思います。国際情勢を異なる視点から捉える、或いは、日本は国際社会からどのようにみられているのかと、日本での報道からだけでは知ることが出来ないことが学べます。また、参加されている受講者の方々も職業、社会経験、ドイツ在住の経験など様々ですので、講座の合間の会話の中からもドイツに関することだけでなく、様々な事が学べると思います。

このドイツ語講読講座の大事なことは、報道記事ですので接続法Ⅰ式、接続法Ⅱ式、受動態を用いた表現、相関的接続詞等が頻繁に出てきます。少なくとも初級文法で習う範囲は一通り知っておくほうが、よりスムーズな講読に役立つ事が出来ると思います。記事は、ドイツ人が日常読み、聞きしている文章ですので難しいことはないのですが、でも文法を忘れてしまっていて難解なこともあると思います。そのような時は周りでカバーできると思いますし、やります。安心して参加してください。

私の感想ですが、日本語においてもいろんな表現の仕方があり、そこから微妙なニュアンスを感じ取り、理解を深めています。母語としてではなく学ぶ言語は、やはり文法を理解しておくことが大事ではないでしょうか。直説法だけでは十分に表現できない、そこが言語表現の在り方だと思います。そして、最後は、日本語として理解できるように訳する母語の能力ではないかと思っています。ドイツ語の読解能力を、自らの広い視野・教養と一緒に高めませんか。また時には記事の誤字、誤植の発見も楽しいことですよ。

## 講読クラスLF

## ドイツ語読み方教室

会員 大西 晋輔

ドイツ語を再開して5年目、最初は3ヶ月で文法を一通りするクラスを受け、その後LFで短編を読んでいます。現在は、『Heinrich von Kempten』という中世の騎士のお話を読み進めているところです。

「読む」ということは、ドイツ語文を「形」と同時に「内容」からも考えるという二重の作業だと思うので、文章の中での文法の使い方、それを前提とした内容の理解を繰り返し練習することができます。「nun」とか「ja」のような副詞や感嘆詞の意味にも配慮しながら内容をとらえるのは、日本語の感覚とは異なって難しいですけど、執筆者によって使うところや、表現の仕方が異なっておもしろいものです。

もちろん、講読なのでドイツ語文を訳しますが、訳せたから読めているのではなく、読めているから、必要な場合には訳すことができると思うので、訳し方ではなく、まず読み方を身に着けることが重要です。

語句を調べて、ドイツ語という記号を日本語という記号に変換して、ドイツ語文が「こういう意味らしい、たぶんこういう意味だろう」ではなく、ドイツ語である以上、文法的にも「こう解釈するのが正しい」とする自信を持った読み方ができるようになるために、授業を受けてみませんか。

## ドイツ文化教室「ドイツオペラへの招待」講座のご紹介 会員 久野 万里子

毎週火曜日の10時40分から12時まで開かれる「ドイツオペラへの招待」の講座ですが、2018年度第Ⅳ期で20作目の講義となりました。うち再受講希望の多かった「魔笛」、「ローエングリン」、「ナクソスのアリアドネ」、「神々の黄昏」は2度講義されています。ドイツオペラは数多あれど、原曲がドイツ語で書かれているものはさして多くはないようです。モーツァルト、R・シュトラウス、ヴァーグナーはもちろんのこと、ベートーヴェン、シューマン、シューベルト等の希少なオペラまで取り上げて頂きました。今はヴァーグナーの最初期のオペラ「リエンツィ」を受講中。少人数(6~7名)で次郎丸智希先生の立体的な講義を受けます。まず、DVD鑑賞に先立って、当日鑑賞する場面のリーフレットを受講者一人一人が配役されて、音読します。今まで最も印象的だった役は、「ばらの騎士」のマルシャリンでした。それ以来、この作品には人一倍思い入れがあります。次に作品を鑑賞。そして、時代背景、作曲家の同時代人、同じ題材を扱った絵画などの多方面からの講義、時にスコアを教わることもあります。また、舞台芸術全般に携わられる講師のユニークな創作劇が展開されることもあり、今は作品に因んで「ヴァーグナーを探して」というお芝居が進行中。正に、3Dでオペラを学ぶと言えるかもしれません。これまでで特に印象的だったのは、「ばらの騎士」、「ニーベルングの指輪」4作、「ローエングリン」などです。とりわけドイツオペラの巨人、ヴァーグナーについての講義は熱の籠ったもので、ドイツ近代史には興味を掻き立てられます。また、鑑賞するDVDも吟味されたものだと思います。初心者にも愛好家にも、得るところの多い楽しい講座です。

### 2019年度通常総会・会員懇親会のお知らせ

来年度の総会は下記のように開催します。ご予約に入れて、是非ともご参加ください。  
総会の詳細については、次号にてお知らせし、総会資料は4月後半にお送りします。

日 時： 2019年5月18日(土) 16:00~19:00

場 所： ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)

## 行事参加感想

## 神戸日独協会「第4回ドイツ料理講習会」に参加して

松本 規子(奈良日独協会)

私は、奈良日独協会の理事をしています松本規子です。この度、表題の講習会に、初めて参加させていただきました。

今回は、ドイツ総領事夫人のマルティーナ・ライリング=ケーラーさんにご指導いただきました。ザウアークラウトは、レシピを見る迄は、びん詰めから出してそのまま食べるものと思っていました。しかし、実際は先ず、玉ねぎを炒めた後、これと野菜ブイヨン、および、ベーコンと一緒に、じっくり40分間、時間をかけて煮込みました。とても柔らかく、美味しく、この素材の新しい料理の仕方を学びました。

セルビエテンクロス(ダンプリング)は、ラウゲンパンを使用しました。ラップを使った巻き方も、わかりやすく説明していただきましたので、この中に水が入らず、上手に煮ることが出来ました。切ると綺麗な木目模様になり、このパンを使う意味が分かりました。当日のパンは、ご夫人が焼いて持ってきていただきました。

その上、Serviettenkloß と Serviettenknödel ならびに、Semmelknödel の違い等を調べるにつけ、ドイツの食文化について、いろいろ知見を得る機会となりました。

このような機会を与えていただくことにより、メニューだけでなく料理の基本、食に対する考え方などレシピ以上の事を学ぶ事が出来、参加できて本当に良かったと感謝の気持ちで一杯です。

最後に、お誘いいただいた会長ご夫妻ならびに、準備いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

### お詫び

松本規子さんの原稿は会報2月号のためにお送りいただきました。会報編集の落ち度により遅れて今号での掲載になりました。松本さんには掲載が遅れましたことを心よりお詫び申し上げます。 栢田義一

## 神戸日独協会「会員によるコンサート」への感想

殿木戸 結子(シスメックス株式会社)

2月11日午後、神戸日独協会会員によるコンサートに家族3人で参りました。ドイツ留学ご経験者を中心とした若手演奏家による素敵なプログラム、冒頭の尾辺副会長のご挨拶でも「北ドイツを思わせるような寒空」と表現されたように当日は山手に霧がかかりあいにくの曇天でしたが、一步会場に入ると顔見知りの方同士でご挨拶を交わされ、初めて参加する我が家の子供にもドイツ人のご婦人が「楽器を演奏するのかな？」と声をかけてくださり、明るく温かな雰囲気の中で演奏を楽しむことができました。

第一部は『ベートーベン ロマンズ へ長調』の澄んだ音色のバイオリンとふんわりと優しいピアノの掛け合いから演奏が始まりました。続くショパンの『ノクターン』や『子犬のワルツ』、少し憂いのある『ワルツ嬰ハ短調』等の優美なピアノの調べにうっとりとなり、モーツァルトの『きらきら星変奏曲』の心弾むメロディが流れる頃、6歳の息子は余りの心地よさに夢の中に誘われてしまいました。休憩時間中は談笑の声が絶えず、外の寒さを忘れてしまうほど。そして第二部の始まりはがらりと雰囲気が変わり、メンデルスゾーンの子午線の物悲しい短調の響きから、繊細でいて時にダイナミ

ツクピアノのタッチに圧倒されました。そして最後はオーボエ、ホルンとピアノによるライネツケ。管楽器が奏でる伸びやかなテーマとピアノの調べが幾重にも重なり織りなす音に、観客の皆さんも思わず身体がリズムを刻んでおられるようでした。

本当にどの演目も素晴らしく、若い演奏家の皆様の才能を垣間見ることができました。音楽という文化を通じた日独のつながりを感じ、またこのような機会があればぜひ参加したいと思いながら、家族みんな暖かな気持ちで帰路につきました。このように素敵なコンサートに久しぶりに参加でき、運営いただいた皆様にも心より感謝申し上げます。

### 3月実行委員会のお知らせ

前号会報にてお知らせしましたが、3月の実行委員会にて2019年度の協会活動について協議をしますので、実行委員以外の方にも是非ともご参加の上ご意見をいただきたくお願いいたします。

日時:3月17日(日)15時～

場所:神戸日独協会会議室

## ドイツ語談話室 第183回ドイツ語談話室

日時 : 2019年2月16日(土) 14-16時

場所 : 神戸日独協会会議室

テーマ : 2019年の課題は

今回の司会は林典人氏が担当され、まづ、30年前に冷戦が終わりEUがスタートして世界は希望に満ちていたが、今年は残念な事に不安と安全の確保が主題であり、大国間の衝突が懸念される事を述べられた。

出席者からの発言の一部を、下記紹介する。

—このような状況にあっては、一人一人が正しい行動を続け、人々に喜びをもたらす行いをし、そうした一步一步の積み重ねがよりよい社会を作るベースにならないといけない。

—グローバル化の傾向は良い方向だと考えるが、いくつかの大国が孤立主義に向かおうとしているのは問題である。環境問題にしても、グローバルな協調がなければ、子供の代に禍根を残す。

—ドイツと日本の良い関係が、今後もさらに続いてゆく事を期待している。

—地球規模の問題として、持続可能な開発が進むことを期待する。日本国内の問題として、地震大国の日本から原発をなくす事、日韓の相互不信のエスカレーターを食い止める事、それに健全な野党が育ってLDPの一党独裁を食い止める事、を願う。

—去年は多くの天災があったが、今年は天皇も交代される年で、平穩を願う。個人的には、娘が

6月に結婚をするので、家族としてとても喜んでいる。

—平成からの年号の変更が IT 関連のシステムに及ぼす問題への対応が上手く出来る事を願う。  
2000年の時や、昭和から平成の時も同様の問題があった。

—今年生まれる赤ちゃんは、可哀想なことに、生まれた瞬間から800万円以上の負債を負わされている事を考え、この状況をなくしたい。

—今年目標として、ピアノの上達と、ニーチェの本を読んで彼の思想を理解したい。

—世界の問題として、ロシアからドイツに至る1500kmの直通パイプラインが意味するドイツのロシアへのエネルギー依存や、中国の急速な国内発展とアフリカ他海外への急速な進出がある。

—このドイツ語談話室に今後も参加して、皆さんとの意見交換を期待する。また、今年は新しいパソコンに乗り換える必要に迫られそうである。

—日本での環境問題に対する取り組みはすぐれているとドイツの専門家から聞いた。こうした取り組みが今後も続くことを願う。

—健康問題について、特に身体健康と精神健康の両面から考えてゆきたい。

### 今後のドイツ語談話室の予定

第184回 2019年3月16日(土) 14-16時 テーマ : 日本の外国人労働者問題

第185回 2019年4月20日(土) 14-16時 テーマ : 銀行取引で出くわした経験

## Deutsche Gesprächsrunde Protokoll der 183. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 16. Februar 2019, 14 bis 16 Uhr

Thema: Was sind die Fragen, die für das Jahr 2019 von Bedeutung sein werden

Dieses Mal hatte Herr Norihito Hayashi die Gesprächsleitung und erzählte, dass es 30 Jahre her ist, seit der kalte Krieg endete und die EU begann. Es war eine Zeit großer Hoffnungen. Leider machen sich heute wieder Ängste breit, man sucht wieder nach Sicherheit und muss sich erneut Sorgen über mögliche Konflikte zwischen den Großmächten machen.

Bei der Gesprächsrunde kam es unter anderem zu folgenden Wortmeldungen:

-Eine Teilnehmerin sprach davon, dass es jedem einzelnen obliegt, Schritt für Schritt gute Taten zu setzen und anderen Freude zu bereiten. Nur so entsteht die Basis für eine bessere Gesellschaft.

-Ein Teilnehmer denkt, dass die Globalisierung eine gute Richtung ist und es ist problematisch, dass einige größere Länder egozentrische Tendenzen zeigen. Bei Umweltproblemen etc. bedarf es globaler Zusammenarbeit, damit nicht unsere Kinder ausbaden müssen, was wir verschuldet haben.

-Eine Teilnehmerin geht davon aus, dass sich die guten Beziehungen zwischen

Deutschland und Japan auch in Zukunft erhalten werden.

-Ein Teilnehmer hofft darauf, dass nachhaltige Entwicklungsziele erreicht werden, dass das von Erdbeben bedrohte Japan aus der Atomenergie aussteigt, dass der zunehmende Hass zwischen Japan und Südkorea gestoppt wird, und dass sich auch wieder eine politische Opposition gegen die Monopolstellung der LDP zusammenfindet.

-Eine Teilnehmerin erinnerte an die zahlreichen Naturkatastrophen im letzten Jahr. Sie hofft, dass dieses Jahr, in dem es auch einen neuen Kaiser geben wird, wieder ruhiger verläuft. Als privates Ereignis steht im kommenden Juni die Hochzeit ihrer Tochter bevor. Dies ist eine große Freude für die ganze Familie.

-Ein Teilnehmer macht sich Sorgen, ob die IT Industrie in Japan die Änderung der Zeitrechnung vom jetzigen „Heisei“ zum Namen der Amtszeit des neuen Kaisers gut schaffen wird. 1999 – 2000 kam es beim Wechsel von „Showa“ zu „Heisei“ zu einigen Problemen.

-Eine Teilnehmerin klagte, dass jedes neu geborene Baby in Japan sozusagen gleich mit mehr als 800 Millionen YEN Schulden zur Welt kommt. Diese Situation muss unbedingt geändert werden.

-Eine Teilnehmerin setzt sich als private Ziele für dieses Jahr, Fortschritte beim Klavierspiel zu machen und tieferes Verständnis in das Denken von Friedrich Nietzsche zu finden.

-Ein Teilnehmer fürchtet, dass für Deutschland dessen Abhängigkeit von russischer Energie mit der 1500 km langen direkten Pipeline eine Bedrohung für die Zukunft sein könnte. Auch in der schnellen Wirtschaftsentwicklung Chinas und deren raschen Expansion in Richtung mancher afrikanischer Länder sieht er eine gewisse Bedrohung.

-Ein Teilnehmer sprach von der Gesprächsrunde, bei der er weiterhin mit den anderen Teilnehmerinnen und Teilnehmern Meinungen austauschen möchte. Es sieht so aus, als ob er dieses Jahr einen neuen PC kaufen müsste, mit dem er dann auch wieder neu umgehen lernen muss.

-Eine Teilnehmerin hat von einem deutschen Experten gehört, dass Japan Umweltproblemen gegenüber vorzügliche Maßnahmen ergreift. Es steht zu hoffen, dass die Forschung auf diesem Gebiet weitere Erfolge erzielt.

-Ein Teilnehmer sieht es als Aufgabe für dieses Jahr, viel über körperliche und geistige Gesundheit nachzudenken.

### **Nächste Treffen:**

Samstag 16. März 2019, 14 bis 16 Uhr, Thema: Ausländische Arbeiter in Japan

Samstag 20. April 2019, 14 bis 16 Uhr, Thema: Erfahrungen mit Banken

## **事務室からのお知らせ**

## お悔やみ

会員の方が逝去されました。

杉本 徳子 さん 2018年 9月

村上 和史 さん 2018年11月

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りします。

協会ではご遺族からのご連絡をいただいて、ご通知しています。

## 2018年度新会員のご紹介 (敬称略・順不同)

個人正会員： 平塚 裕章

個人準会員： 井上 恵理、佐々木 實、藤木 尚子、合田 憲司、島田 茂、小坂 和子、  
細田 理瑠、伊藤 肇、遠藤クラム智子、平山 順子

## 会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の発送予定日は4月11日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越しください。

## 事務員の勤務

本年3月より協会事務室は次のように勤務されています。よろしく願いいたします。

火・水・木曜日： 広田 直子      月・金曜日： 井本 徳子

## 実行委員として神戸日独協会の活動に参加しませんか

神戸日独協会の主要な年間の活動は総会及び理事会によって決定されますが、日頃の活動は実行委員及び会員によって行われています。実行委員は定款上の役職ではなく、会員のボランティアによるものです。毎月第3日曜日に実行委員会を開催し、会員の方々が希望するあるいは実行委員のアイデアによる催し物を企画し、準備し、実行しています。神戸日独協会は会員の皆様の積極的なご支援を必要としています。

次回の実行委員会は3月17日(日)15時より協会会議室にて開催しますので、奮ってご参加ください。

## これからの神戸日独協会の催し

| 日 時                  | 催 し                 | 会 場                | 申込〆切 など |
|----------------------|---------------------|--------------------|---------|
| 3月16日(土)<br>14:00~   | 第184回 ドイツ語談話室       | 神戸日独協会<br>会議室      | 当日参加可   |
| 3月17日(日)<br>15:00~   | 実行委員会               | 神戸日独協会<br>会議室      | 当日参加可   |
| 5月18日(土)<br>16~19:00 | 2019年度通常総会<br>会員懇親会 | ユーハイム神戸<br>元町本店ホール | —       |